

学校評価 令和7年度回答結果のまとめ

横浜市立六浦南小学校

校長 神田 記子

早春の候、保護者の皆様におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、日頃より本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、今年度の「学校評価アンケート」の集計結果と分析をご報告申し上げます。この結果をもとに来年度の教育活動について検討してまいります。アンケートのご協力、ありがとうございました。

○実施日 令和7年12月

○回答数 254名

○結果の分析

※「肯定的回答」とは、アンケートにおいて、「そう思う」「だいたいそう思う」とを合わせた数値です。

※「否定的回答」とは、アンケートにおいて、「あまりそう思わない」「そう思わない」とを合わせた数値です。

※小数第一位を四捨五入のため合計が100%にならない場合もあります。

項目	評価項目	肯定的回答	否定的回答	分からない
1	<知:授業改善>学校は、他者との関わりを通して、主体的に学習に取り組んだり、友だちと学び合ったりする力を育成している。	93%	4%	3%
2	<徳:人権教育>学校は、子どもたちの自分や友だちを大切にしようとする態度を育成している。	91%	4%	5%
3	<体:健康教育>学校は、児童自らが健康や体力に関心を持ち、自分らしく健康な生活をつくろうとする態度を育成している。	88%	8%	4%
4	<公:自分づくり教育(キャリア教育)>学校は、地域社会とのつながりやかかわりを大切にして、地域の中で学ぶ機会をつくり、これからもまちの中で学んでいこうとする態度を育成している。	88%	5%	7%
5	<いじめへの対応>学校は、多様な視点から児童の様子を観察し、全校の子どもたちが「いじめのない安全安心な学校生活」を送ることができるように、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に取り組んでいる。	80%	8%	12%
6	<特別支援教育>学校は、児童の状況を把握し、実態やニーズに応じた適切な支援を行い、一人ひとりが落ち着いて過ごせるような学習環境の実現に努めている。	81%	7%	12%
7	<児童指導>学校は、「六浦南小のきまり」を通して、学校生活のルールをわかりやすく伝え、保護者と共通理解を図って児童が安心して生活できる場をつくることに努めている。	87%	7%	6%

[考察]

1 <知:授業改善>

今年度は、「他者との関わりを通して、主体的に学ぶ授業」というテーマを設定し、職員間での研修に取り組んできた。子どもたちの「やりたい」「やってみたい」を引き出すための1つの手立てとして、「他者との関わり」が大切だと考えたからである。

各学年・各クラスで、子どもたち同士、教師、保護者、地域、専門家との関わりを意識的に取り入れた授業を実施することで、子どもたちの主体的な姿が見られる場面を創ることができた。それが、アンケート結果から93%の方に肯定的に捉えていただいているという結果に繋がったと考えられる。

一方で、7%の方が否定的回答または分からないと回答している。次年度は、引き続き子どもたちが他者と関わりながら、主体的に学習に取り組む授業を意識して構想するとともに、学校でどのような学びが展開されているのかの発信をしていきたい。

2 <徳:人権教育>

今年度も、子どもを大切にしたい授業づくりとともに、職員の人権意識を高める研修も進めてきた。また、児童の取組として大道中ブロック子ども会議を受け、『いじめをしない自分であるために』～つながる、広げる、いじめ未然防止の輪～をテーマに活動を行った。本校の児童会テーマ、『かがやけ おつみの WA～笑顔満開～』の取組では、子どもたちの考えから「友だちの気持ちを考える」「いろいろな人と関わる」活動が企画された。年間を通して、「みんなが笑顔満開になるために」できることを、それぞれの立場で考え行動していた。アンケート結果から、91%の方が肯定的回答をしていることが分かる。引き続き、教育活動全体を通して、自分や友だちを大切にしようとする態度の育成に努めたい。一方で、9%の方が、否定的回答または分からないと回答している。学校での取組をもっと周知し、家庭との連携を図れるようにしていきたい。

3 <体:健康教育>

児童自らが健康や体力に関心を持ち、自分らしく健康な生活をつくろうとする態度を育成するために、保健だよりや、掲示板などを活用し、自分のからだについて関心をもてるようにしている。いろいろな場面を通じて、各学年の成長に応じた健康教育や、食育などを行っている。特に、今年度全学年を通じて、「生活習慣の改善」「免疫力の向上」に取り組むことができた。全校の欠席者が前年度に比べ減少傾向にあることから、感染症の予防に一定の効果があり、児童の意識改革につながっている。食育についても、残食率の減少が見られ、バランスよく食べることを意識している児童が増えている。

その他、企業連携の充実を図り、生活習慣の改善につながっている。

健康でバランスのよいからだづくりに生かせるように、外部講師と連携し、楽しみながら体を動かすことの楽しさを味わうことができた。今後も継続した取組や活動にしていきたい。

4 <公:自分づくり教育(キャリア教育)>

今年度も、学年の発達段階に応じて、地域の方々との交流を積極的に行った。主な活動として、1年生は一年を通して、幼稚園や保育園との交流を続け、自分自身の成長に気付くことができた。2年生は地域の緑花クラブの方々とは花植えを行い、地域には自分たちを見守り支えてくれる大人がいることを実感した。また、4年生はネイチャリストの方との交流を通して自然への関心をさらに深めた。5年生は、地域の方々へのインタビュー活動を行い、その内容を新聞づくりにつなげた。新聞づくりを通して、地域の方の思いや仕事、経験に触れることで、地域への理解を深めることができた。こうした取組を通して、子どもたちは人との関わりの中で学ぶことの大切さを実感し、地域の一員として考え、行動しようとする姿が育ってきている。

5 <いじめへの対応>

いじめへの対応は、いじめ防止基本方針に沿って行っている。いじめアンケートの活用や各学級での実態に合わせた指導、人権週間の取組などで、未然防止、早期発見・事案対応に努めた。また、今年度は、いじめ防止基本方針の改定に取り組んでいる。その中で、児童会スローガン「かがやけむつみの WA～笑顔満開」に向けて、子どもたちの「関わりを増やしたい」という思いが出され、関わりが増えて笑顔満開につながるイベントなどを子ども主体で行ってきた。子どもたちは、関わりが増え、知っている人が学校に増えると、いじめをしない自分に近づくことができるという思いをもっている。「いじめ」の定義が児童に浸透し、「いじめのない学校にしよう」という意識が児童の活動につながっている。

実際に児童の行動や人間関係の変化などが見られた際には、管理職、児童支援専任、学年が一体となって、いじめや問題行動等に迅速に対応した。行動や関係の変化など、児童についての情報は、職員会議や打ち合わせ、児童指導委員会などで、職員間で盛んに共有し、学校全体で子どもたちを見守る体制を作っている。いじめ対応や児童指導の取組について、さらなる発信をしていきたい。

6 <特別支援教育>

今年度も教職員が児童の学習や生活の様子を連絡し合い、協力して個に応じた指導を心がけている。学級で学習や生活に困り感を抱いている児童に配慮した学習計画や支援の形(特別支援教室)を考え、充実させていくことができた。作成した個別の教育支援計画、個別の指導計画を定期的に見直したり、保護者と共有したりすることで、支援に生かしている。また専門的な知識・経験を持つスクールカウンセラーや関係諸機関と連携しつつ、児童や保護者の悩みに対して適切に相談に応じた。昨年度より肯定的回答の割合が上がっているのは学校の取組を伝えられた成果と思われる。一方で、12%の方が「わからない」と回答している。学校での支援体制や取組をさらに伝えていく必要性を感じている。

7 <児童指導>

本年度も「学校の決まり」を配布し、各家庭に六浦南小スタンダードを周知した。この六浦南小の基本的なルールは、全学年全学級において一貫した指導の実現を可能にするとともに、盗難や紛失のトラブル、金品授受や不公平感、差別やいじめにつながるきっかけを少なくし、安心して安全な児童の学校生活を目指している。児童にもそういう目的でこのルールはあると説明している。また、児童のためにあるルールなので、児童の実態や世間一般的な風潮や流行も加味し、毎月見直しを行い、柔軟にルール作りを進めてきた。ルールをしっかりと守る児童が多くみられるとともに、トラブルの件数も減ってきている。来年度も、今年度以上にこの六浦南スタンダードの意義を伝え続けていく。